

## ◎道路改良費に通行税を充てよ

××新聞記者 藤 尾 哲

最後の幕切れで大芝居を打つて観客をヤンヤと云はせた日比谷座の第五十回通常興行も多大の収穫を納めて目出度く幕となつた、アトは豫算の編成迄政界波も先づ静かだらう。

行政財政の整理も行なつた。普選案も通つた。貴族院改革も出來た。現内閣の政綱政策である重要な問題は殆んど全部片付いたと政府當局も云へば與黨三派も宣傳する。徹底不徹底の差こそあれやつたことは確かに事實た、殊に會期を一度延長して曲りなりにも普選案を通したことに就ては國民の感謝すべきことであらう。

所で何もかも片付いたのだから政府も用がなくなりそなものがそれでは氣が済まんものか稅制の整理とか社會政策とか又は國民生活の安定とか云ふ看板に塗り代へて出直はす相談をして居る。何んのことはない燒芋屋が氷水屋になつた

やうなものだがそれでも出来れば結構だ、殊に稅制の整理、社會政策、國民生活の安定と云ふやうな問題は現在のセセコマしい日本人の生活に執つては頗る重要な問題で普選案や貴族案に優るとも決して劣るものではない。だが併しこれらは何れもむづかしい問題で稅制の整理を除いては目に見へて効果の舉がることは極めて少ない。最近の内閣は何れも皆社會政策とか國民生活の安定と云ふやうなことを口にして居たがこれはと思つたやうなことは一つもして居らぬ、又やつても目に見へぬかも知れない。それ程むづかしい問題なのだ。

### 二

普選案の通つたと云ふことは現在の政治家にどれ程大きなショックを與へたか解らない、代議士の中には通らぬと信じて居たものがかなり澤山あつたことは事實だ、一種の群衆心に動かされてワイ〜騒いで通過に努力した連中も通過し

た後で自分にかへり静かに考へたとき過去の努力が我が身を埋める墓穴であつたことを思い内心その馬鹿々々しさに苦笑したことだらう。何れ一度は入るべき運命を負はせられたものは入るものよからう。國家には恒久性があるので、政治から新らしい氣分がなくなれば民心が頽廢する、社會は常に新陈代謝の行なはれるのが原則だ、原則に相反した不自然な狀態

は決して永續するものではなく又不自然の永續は自分の爲にも又國家國民の爲にも決して喜ぶべきことではない、併し墓穴へ入つたからとて我が憲政史上には立派にその努力が残るのであるからそれで満足すべきだ。

萬からの新有權者が現はれるのだからそれだけでは濟まさ  
まい。政黨の分解、新政黨の出現、曰く何々と今後の政界はめまぐるしい程廻轉するだらう、新進の政治家が現はれ沈滯しきつた現状を開けることは我々の希望する所だ。

### 三

社會政策と國民生活の安定は別の機會に譲るとして税制の整理に就て一言希望を述べさせて貰ふ。

普選に依つてふるひ落されるのが多いか少いかは政黨に執つてさほど大きな問題ではないがふるひ落された代りが多いか少いかは頗る重大問題で、黨派の消長は一にこの點にかかる。だから各政黨はこれから新しい看板を掲げて普選に現藏相濱口雄幸氏は財源の關係から實行不可能を力説されやうなことを聞いたが現在の税制をどの程度に改廢整理するかは今の所全く白紙らしい。嘗て地租委譲問題が起つた時、現藏相濱口雄幸氏は財源の關係から實行不可能を力説された、今も何等これと變る所はなかろう。殊に大震災後の今日絶対に不可能と云はれることであらう。又必ずしも地租の委譲に執着する必要はないのだ。地租委譲問題の起つたのは窮頭を悩まして居るらしい、何々黨の新政策とか何々派の方針とかとこの頃の新聞にもつともらしく出て居るが前に舉げた税制の整理、社會政策、國民生活の安定などは看板中の大看板となるべきものである。普選に依つて既成政黨が只政策を變更すると云ふだけでは誠に興味が渺い譯だが兎も角約一千。

の整理は決して斯る單純なものでないことだけは理解出来

る。渺くとも社會政策的の意味を含んだ整理を行ふことにな

らうと思ふが要はどの程度に行ふかゞ問題である。如何なる新税を興すか、増税するとすれば何をするか、又何を廢止す

るか輕減するか、これらは頗る興味ある問題で新有権者を前に試験されることになるのだが現内閣が果して財産税を興し特別所得税を徵する勇氣があるか、更に又相續税を徹底的に増徴する決断があるかどうかは頗る疑問である。若しこれを爲さずに清料飲料水の課税とか又は化粧品税位に止まるならばその程度も知れたものだ。

他方廢止若しくは輕減して貰いたい税は山程あるがそれを一々並べるのは本文の目的ではないからそれだけは止めるとして只道路に關係する通行税のことにして見たい。

通行税は十四年度豫算に一千百六十八萬圓許り計上されてある。我々が日常電車に乗る、氣車に乗る、乗合自動車に乗ることに依つて徵集される税である。長距離の乗車券や定期券になるとその負擔は軽いがそれが短距離になればなる程重くなり例へば五錢の區間に於ても一錢の通行税を徵集されるやうになつて居る。一錢と云へば金額こそ少いが負擔の割合から云へば二割に相當するのである。通行税は乗物税でありながらブル階級の所有する自動車やその他には一文の通行税も課せられて居らぬのだ。

通行税徵集の理由がどこにあつたか知らぬが今日となつては確かに惡税の一つに數へらるべきものだ。非社會政策的の税が廢止されるとしたらこれなどは真先きに廢止すべきものと思ふが通行税は個人々々に執つてかなり重い負擔でありながら今日では習慣となつて居る故かさほどの負擔とも思はれなくなつて居る。だから今直ちに廢止せずにこれが收入を一般の歳入と切り離し全部を擧げて最も關係の深ひ道路の改良費に當てたらどんなものかと思ふ。

道路の改良は國民全般に對して利益を與へるのだ。非社會政策的の金も使ひやうによつては社會政策的になつて来る。一千百余萬圓と云ふ金額は現在の三百幾十萬圓かに比較すればかなり多いが道路改良の當初豫算は一千萬だつたのだから結局元に戻すと云ふ程度で決して驚く程の金額でもなければハタで妬むやうな大きな額でもない。斯くすることが通行税をして最も有意義たらしむるものと思ふ。兎も角政府が稅制の整理を行なはんとする以上必ずこの通行税も問題になることを信ずるからその時には充分考慮して貰いたい。そして十五年度の豫算編成の時から實現されんことを希望する。

本文も結局前號同様我田引道論に終り眞に恐縮の次第だ。元來本號には田中幹事の注文もあつたので議會の雑錄のやうなものを書く豫定だつたが閉會間際になつてあの騒ぎだつた

## 軌道建設と近代道路 (四)

佐藤利恭

### 六 騒音防止

都市が繁榮に趣くに從て商工業の益々勃興を來して運搬に交通に愈々繁激を加ふるに至るは誠に當然の歸著と云はねばならぬ。之に順應する爲め如何なる施設を爲すべきであるかは都市と云ふ有機體の活動を促進する上に於て甚だ重大な事項であると共に、之等に起因する騒音を防止して都市生活者の安寧を圖る事も決して等閑に附してはならぬ問題である。

近時都市に於ける交通事故の頻發するは種々なる原因に依る事ならんも、都市生活者が事務所に又は工場に長時間の緊張せる仕事に疲勞し切つた身體を、歸路に運べば忽にして混

雜や、黃塵や、泥濘に騒音に新たに苦しめられ漸く我家に迫り着いても、清新閑靜なる自然に接して甦る事も出来ず汚れた空氣と騒音との中に不知の間に身心を損耗して、一種の神經衰弱症に罹て居ることが確に其の主要なる原因の一に相違ない。今日都市計畫の聲漸く喧しく之が實現を急ぎつゝある所以は、全く都市生活者に對して實際的に人間生活の幸福に適合せしむる積極的方法を講ぜんとするに外ならぬのである。

人は先天的に廣々とした野面に立ちて遮るものもなき太陽や海や川に自由に自然に親しみながら長閑なる生活を營む事を欲するものである。彼の「サーテライト、タウン」と丁怡